

非営利法人ニュース

2020年
8月号
Vol. 87



発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814

編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ 助成金のお知らせ ★★

【1】For Children基金

□目的:難病の子どもとその家族は、重い障害やつらい治療に負けず今日も病気とたかいつづけています。どんなに重い病気でも、どんな障害でも子どもは日々、成長・発達しています。そして、そうした子どもたちや家族を支えたい、力になりたい、明日への希望と勇気になりたいという思いで、この助成金ができました

□助成対象:日本国内において実施される活動で、以下の要件をすべて満たしたもの

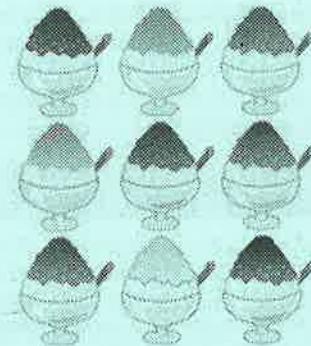
1. 上記の目的を達成しようとする事業であること
2. 設立後1年以上の活動実績を有する非営利団体が行う事業
3. 営利を目的としない事業

□助成件数:2020年は3~5件程度

□助成期間:単年度(2020年9月~2021年8月までの間の活動)

□助成額:1件あたり 100万円(上限)補助率の制限はありません。

□募集期間:7月1日~9月30日 ※当日消印有効



◎情報満載! 今月のもくじ◎

助成金情報	1
奨学金情報	1
非営利法人関連情報	2.3
CEOコラム	4
編集後記	4

【2】横寺敏夫 患者と家族の支援基金

□目的:療養中の患者さんやご家族のサポートを積極的に行う団体及び個人に対し、その活動を側面から支援して活動成果の助長奨励の一助として、患者さんやご家族の不安や苦しみが少しでも減り、笑顔が増えることを目的とします。

□助成対象:日本国内において実施される活動で、以下の用件のいずれかを満たしたもの。

- (1) 患者さんやご家族に対する様々な支援活動
- (2) その他この基金の目的達成に資する活動

□助成件数:2020年は3団体程度

□助成期間:単年度(2020年10月~2021年6月までの間の活動)

□助成額:1事業あたり50万円を上限とする。

(パソコン・カメラ等の耐久消費財の購入・常勤スタッフの人事費等の経常的経費は対象としません)

□応募手続き:応募用紙は、当財団ホームページ(<https://kosuikyo.com/>)よりダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙と添付書類を郵送してください。

□募集期間:2020年7月1日~2020年9月30日 ※当日消印有効

★★ 返済のない奨学生のお知らせ ★★

【3】「タクト奨学生」

『税理士または公認会計士資格の取得に専念する25歳以下向け奨学生』

□募集期間:2020年10月30日まで (当日消印有効)

□採用人数:2020年度の奨学生は10名程度を採用とする

□応募資格:学生または就労していないこと。かつ以下の①または②を満たす者
①税理士試験2科目以上合格していること
②公認会計士試験を1回以上受験したことがあること

□給付等:年額20万円を支給します

※応募書類等詳細は当財団ホームページ(<https://kosuikyo.com/>)をご確認ください

☆助成金・奨学生応募先等☆

【1】【2】助成金

【3】奨学生

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先

〒105-0004

東京都港区新橋6-7-9

新橋アイランドビル2階

(公財) 公益推進協会

担当 高野宛

・For Children基金

・横寺敏夫患者と家族の支援基金

・タクト奨学生

お問い合わせ

03-5425-4201

※奨学生、助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願いいたします

★非営利法人関連情報★

「エール花火」22日に打ち上げ 全国で

全国の花火爱好者でつくる団体「日本の花火を愛する会」(秋田県大仙市、挽野実之(のりゆき)代表)は14日、28都県で一斉に花火を打ち上げる「日本の花火『エール』プロジェクト」を22日夜に開催すると発表した。大仙市のNPO法人・大曲花火俱楽部が中心となり、日本花火鑑賞士会らと爱する会を結成。新型コロナウイルスの影響で全国花火競技大会(大曲の花火)など全国的に花火大会の中止が相次ぐ中、花火業者をはじめ、コロナ禍や豪雨災害に苦しむ人たちにエールを送ろうと企画した。プロジェクトには大仙、美郷両市町の6業者を含む29都県の81業者が参加。地元で打ち上げられない業者は花火玉を製造し、大仙市の業者が代わりに同市内で打ち上げる。新型コロナ感染防止のため打ち上げ場所は非公表。

(秋田魁新報 8月15日)

大学1年生限定、たき火囲んで交流会

NPO法人のどちぎユースサポートーズネットワーク(宇都宮市)は23日、大学1年生限定でたき火を囲んで語る会を開く。新型コロナウイルスの影響で新入生は対面での交流がままならない状況が続いている。たき火の炎を囲みながら会話を楽しんでもらい友人づくりの機会にもらう。会場はNPOが事務所を置くコワーキングスペース「aret」。県内にいる大学1年生なら進学先の県内外を問わず参加できる。参加者のマスク着用や体温測定、連絡先の確認などをしたうえで午後5時から開催する。10人前後の参加を見込んでいた。どちぎユースサポートーズネットワークが6~7月にオンライン交流会を開催したところ、参加者から「現実に会って話したい」との声が上がり、たき火を囲む会の実施にいたったという。問い合わせは電話028-612-1575。

(日本経済新聞 8月17日)

放置自転車、高校生が解決 駅で撤去

岐阜県揖斐川町の高校生でつくるボランティア団体「スマイルボランティアクラブ」は13日、養老鉄道揖斐駅(同町脛永)の駐輪場で、地域住民と協力して放置自転車を撤去したほか、駐輪マナー向上を訴えるポスターを掲示した。活動のきっかけは、通学で駐輪場を利用するメンバーの大垣日大高校3年、木戸康暉さん(18)のフェイスブックへの投稿。放置自転車の影響でスペースからあふれている実態や、隙間なく置かれたため帰宅時に出しづらいといった悩みをつづり、町に対応を求めた。町は放置されたままの自転車に、7月末を期限として撤去を警告する張り紙を設置。木戸さんは利用マナーの向上につなげようとクラブの仲間と話し合い、ポスターを作った。この日、メンバーと住民ら約20人が参加。張り紙が付いたままの自転車約30台を構内の空きスペースへ移動させ、駐輪場に「心掛けよう放置自転車ゼロ！」、「駐輪マナーを守りましょう！」などと書かれたポスターを掲示した。木戸さんは「みんなと話し合ったことを実行できて良かった。誰もが気持ちよく利用できるようになれば」と期待した。町まちづくり推進課の細野朋洋さん(42)は「高校生の知恵や行動力を地域のまちづくりに生かしていきたい」と話した。

(岐阜新聞 8月17日)

* 内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

販売の楽しみ実感 ママのトライマルシェ

「お店を持つには勇気が出ない、でも試してみたい」という母親に向け、NPO法人ママズハグ(山本加世代表)が主催した「トライマルシェ」が7月30日、国府津のブレンドスタジオで開催され、親子連れなどで賑わった。この日は、小田原市内の母親ら3人が出店し、手作り品の販売やワークショップを実施した。プロジェクトは東京の板金業者の呼びかけで今年5月からスタートした。自然災害への備えとして、地域の業者と住民がつながるきっかけになり、点検費用を被災地に寄付することで社会貢献にもなる取り組み。趣旨に賛同した全国の業者17社がボランティアで点検している。

(タウンニュース 8月15日)

ドローンで屋根点検 費用被災地に寄付

ドローンを使った屋根点検を依頼すると、その代金が自然災害の被災地に寄付されるプロジェクト「三方よしの屋根点検」を、全国各地の建築板金などの専門業者が連携して進めている。道内では札幌の1社のほか、函館のアートルーフ工業が参加している。プロジェクトは東京の板金業者の呼びかけで今年5月からスタートした。自然災害への備えとして、地域の業者と住民がつながるきっかけになり、点検費用を被災地に寄付することで社会貢献にもなる取り組み。趣旨に賛同した全国の業者17社がボランティアで点検している。

(北海道新聞 8月17日)

湖に恩返し セーリング協会がヒシ刈り

NPO法人諏訪市セーリング協会(横山真会長)は14日、諏訪湖への感謝の気持ちとコロナ禍でも諏訪地方に足を運ぶ観光客へのおもてなしの意味を込めて、湖に繁茂する浮葉植物ヒシの刈り取りを行った。加盟する6クラブから10人が参加し、ボート5隻を出して諏訪湖ヨットハーバーから中門川河口付近にかけて目立つヒシを除去した。ヒシの除去は現在、県諏訪建設事務所が水草刈り取り船を導入して行っているが、県諏訪地域振興局などが例年7月に実施している手刈りは新型コロナウイルスの感染防止や活発な梅雨前線の影響で大雨や土砂災害への警戒が続いたため中止となった。同協会は「諏訪湖を訪れる人々に少しでもいい環境の諏訪湖を見てももらいたい」と計画した。

(長野日報 8月15日)

不用な車の寄付、災害支援の財源に

日常生活などで車の有効活用策を展開する石巻市駅前北通りの一般社団法人日本カーシェアリング協会は、8月を「車のリサイクル寄付」キャンペーン月間として廃車などで不用となった車を今月31日まで受け付けています。各地から100台を目標に集め、車両査定金額については豪雨災害による被災地での同協会支援活動の財源に充て、復旧・復興をバックアップする。同協会は今回、2019年にパートナー協定を締結した自動車リサイクル事業者のアイエス総合(登米市)と連携。自動車の寄付思想の普及や、専門業者の適切な処理によるリサイクルサービスの活用と環境負荷の削減、協会活動費の財源化を図り、支援の加速を狙いに取り組む。協会に寄付された車は解体処理し、再利用や素材として再資源化。解体される自動車はほぼ100%活用される。約1トンの重量がある車で、例えばドアパーツの再利用では、新品パーツを製造して取り付けた場合との比較で83キログラムのCO₂排出削減につながるという。寄付する車両は車検切れや故障車など、どのような状態でも可能。廃車や引き取りに関する手数料はかかるない。寄付を希望する場合は協会に申し出、抹消に必要な書類を作成。その後、提携業者のアイエス総合が提供者を訪問して車を引き取り、解体抹消手続きをする。車両の査定金額については協会の活動資金として寄付。協会の機軸の一つとなる被災地支援活動の財源に充てる。廃車となった車は全て再循環され、社会貢献につながる仕組みだ。協会は東日本大震災後に「コミュニティ・カーシェアリング」の普及促進をはじめ、生活困窮者やNPOへの車の貸し出しを実施。7月にあった九州豪雨では現在、熊本県内でも70台の無償貸し出し支援を継続している。同協会は「九州豪雨などの被災地ではまだ車両が不足している。車のリサイクル寄付を財源に、被災地復旧・復興に注力したい」と話している。

(河北新報 8月18日)

学校行くのつらい子、責めないで

コロナ感染拡大で生じた遅れを取り戻すため、一部の地域の学校は17日から新学期が始まったり、授業を再開したりする。長期休校に続き、いつもより短い夏休み。慣れない環境に翻弄される子どもの中には、家庭でも、学校でも居場所が見つからない姿も浮かぶ。支援に取り組む団体などは「学校に行くのがつらい感じる子を責めないで」と呼び掛け。「学校に居場所がない。親にも愛されていない」。ネットで子どもの悩みに応じるサイト「Mex」には昨年度、延べ約100万人の利用があった。投稿欄には「死にたい」といった切実な声も寄せられるという。

(千葉日報 8月14日)

県OBにSOS 寄付1千万円超

新潟県は18日、危機的状況にある県財政立て直しの一環で、県を退職したOBに協力を呼び掛けていた寄付について、締切り期限の7月末までに計1069万7241円が集まると発表した。寄付金は今後、県の貯金に当たる基金に繰り入れ、財政再建に役立てる方針だ。県は本年度から行財政改革のために現役職員の給与カットに踏み切っている。OBにも改革に協力してもらおうと、4月から寄付を募っていた。昨年策定した行財政改革行動計画の趣旨に賛同した個人やOB会の計220件から寄せられた。歴代知事を含めて寄付した人の内訳は「任意の呼び掛けなので明かせない」(人事課)としているが、知事部局以外に警察官や教員のOBもいたという。寄付額の発表を受け、花角英世知事は18日の定例記者会見で「本当にありがたいし、それだけ県を思ってもらっているということに心から感謝したい」と述べた。今後さらに寄付を募るかについては「OBの皆さんにはご協力いただいた。これで一つの区切りだと思う」と話した。

(南日本新聞 8月18日)

農家民泊「母の味」伝授 オンライン教室

新型コロナウイルスの影響で宿泊客を呼び込めない状況が続く中、東近江市愛東地区で農家民泊の受け入れに取り組むNPO「愛のまちエコ俱乐部」は今月から、民泊家庭の「お母さん」がビデオ通話で講師役を務める「オンライン料理教室」を試験的に始める。十七日、報道陣向けに実演が公開された。「おかえりなさい」。俱乐部のスタッフが玄関を入り、スマートフォンのカメラを向けると、農家民泊「木春菊(まーがれっと)の宿」を営む妹町の奥村とよ子さん(69)が出迎えた。「ようこそ。上がってください」。家を案内する話術にも、奥村さんの気さくな人柄がじみ出る。作るのは、地元産の小麦粉や日野菜のぬか漬けを使ったおやき。スタッフが撮影と進行を担い、奥村さんは、パソコンの画面に映る生徒たちの作業を見たり、質問に答えたりしながら「耳たぶくらいの柔らかさにして」「手のひらくらいの大きさに伸ばして」と手際良く指導。40分ほどで出来上がった。

(中日新聞 8月19日)

大学生がオンラインでボランティア交流会

ボランティア活動を行う大学生や、NPO・NGOなどの団体に興味がある大学生を対象とした、互いの活動を知り交流するイベント。高知大学2年生の安藤千夏と岡山大学3年生の佐野祐介さんをゲストにフリップトークを行う。安藤さんは岡山県出身で、「岡山高校ボランティアアワード」に出演した経験もある。現在は、高知県伊野町神谷地区で、地域づくりの活動に取り組んでいる。佐野さんは、国際協力学生団体「Going(ゴーイング)」としてネパールの小学校「シャリー・クリシュナ・セカンダリー・スクール」の図書館建設を支援したことや、タイのゲストハウスでインターナショナルをしたこともある。当日、司会を務めるのは、ノートルダム清心女子大学4年生の手塚春奈さんと岡山大学3年生の田中朱音さん。イベントの企画から関わってきた手塚さんは、大学で地域福祉を専攻している。倉敷市社会福祉協議会に実習に行ったり、平成30年7月豪雨で被害を受けた倉敷市真備町に子どもたちに勉強を教えて、工作のワークショップに参加した経験がある。手塚さんは「ボランティア活動は、誰かのためになるだけでなく、大学で学んだこと実践の場にもなる。ボランティア活動の参加者は、活動的な人が多く、刺激をもらえる。同イベントは、ボランティア活動をする人が体験の共有し、つながりを作る場にしたい」と話す。田中さんは、岡山大学のボランティア団体「環境部ECOLO」の部長を務めている。大学キャンパスや岡山駅前でのごみ拾い活動や、大学卒業で不要になった家具や家電を、新1年生に安価に譲る「家電のリサイクル市」を行っている。田中さんが高校3年生の頃、同団体と出会った。「まだ使えるものを必要な人に届ける」取り組みに感銘を受け、自ら活動をするようになったという

(岡山経済新聞 8月19日)

ヘラクレスオオカブト販売好調 就労支援

障害者の就労支援に取り組むNPO法人「恵夢(めぐむ)会」は、世界最大のカブトムシ「ヘラクレスオオカブト」の飼育セットを販売している。運営する就労継続支援事業所「夢の里」の利用者に、やりがいを感じてもらおうと始めたところ注文が相次ぎ、6月の販売開始から300セット以上を発送する人気ぶりだ。趣味でカブトムシを飼育する職員の谷昌樹さん(29)が、夢の里で仕事の一つとして昨夏から本格導入。「成虫を販売するのもいいが、生命誕生の喜びを家族で味わってほしいと考え、幼虫から成長する過程が観察できる飼育セットを販売するようにした。世話は施設利用者の江越徹さん(62)と永崎靖さん(63)の担当。倉庫にすらりと並んだ飼育ケースに霧吹きで水をかけたり、エサを交換したりする。1年間でヘラクレスオオカブト150匹、国产のカブトムシ1700匹を羽化させた。昨夏には、市内の商業施設であったイベントで、谷さんが育てたカブトムシの販売を手伝った。行列ができるほどの人気ぶりに、2人は「子どもたちの笑顔がすごく励みになっている。仕事にやりがいを感じる」と充実感を漂わせる。飼育セットは、幼虫1匹、ケース、発酵させた土、マニュアルが付いて、一般的な相場より安い3800円。評判は上々で、北海道や沖縄からも注文があるという。

(佐賀テレビ 8月14日)

空家5万戸超え、対策セミナー開催

佐賀県内で、5万戸以上あるという空き家の解決策などを学ぶセミナーが、14日小城市で開かれました。このセミナーは核家族化や高齢化などで増加している空き家の早期の対策や解決につなげてもらおうと小城市が開きました。14日は、空き家問題についてアドバイスなどをしている佐賀市のNPO法人の代表が講師を務めました。セミナーには12人が参加、空き家の相続問題は、タイミングを逃すと長引くこともあるとして早期の対策が重要との説明がありました。また、解決策として、シェアハウスなど賃貸にすることで家賃収入も見込めるなど利活用の方法も紹介されました。おととし時点で、県内には5万戸を超える空き家が確認されているとうことです。

(佐賀テレビ 8月14日)

認知症の不明者情報、LINEで発信

神奈川県横須賀市は9月から、認知症の行方不明者情報を無料通信アプリのLINE(ライン)で発信し、早期発見につなげる事業「よこすかオレンジLINE」を始める。認知症患者の支援ボランティアに情報を伝えて搜索に生かし、認知症の人や家族が暮らしやすい街を目指す。市はこれまで、「横須賀にこつとSOSネットワーク」事業を通じて行方不明者を搜索してきた。行方不明になる可能性がある人の名前や特徴、写真などを家族らが事前登録。行方不明時には市内の警察署が搜索の中心となり、市の行政センター、高齢者介護施設など137機関・事業所にも情報が提供される仕組みだ。年間80~90人がSOSネットに登録し、その1割程度が実際に搜索を必要とする状況になるという。LINEを使った新事業では、認知症患者の支援ボランティア「認知症オレンジパートナー」(約110人)や「認知症サポート」(約2万6千人)を情報提供の対象とする。ネットワークを広げることで、行方不明者探しのスケールを大きくしたい考えだ。

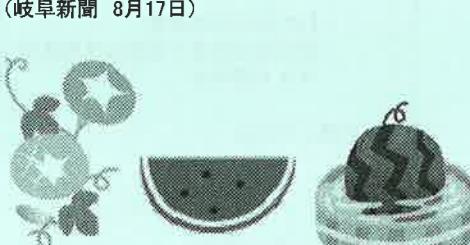
(朝日新聞 8月19日)



被爆12年の生涯書いた絵本 66カ国に

広島で被爆し、12歳で亡くなるまで鶴を折り続けた佐々木禎子さんを題材にした絵本「おりづるの旅」(PHP研究所)を、広島市のNPO法人「ANT-Hiroshima」が翻訳し、世界中の国に送り続けている。これまで32の言語に翻訳し、66カ国以上の子どもたちに届けた。禎子さんは2歳のころ、爆心地から1・6キロの自宅で被爆した。絵本は前半で白血病を発症しながらも「鶴を千羽折れば病気が治る」と聞いて折り続けた禎子さんの短い人生を描く。後半は禎子さんの慰霊のため、同級生が広島の平和記念公園に「原爆の子の像」を建てたことを紹介する。活動は2003年、法人理事長の渡部朋子さん(66)がアフガニスタンの少女を平和公園に案内したのがきっかけ。原爆の子の像を説明するために絵本を紹介すると「国に帰って子どもたちに読み聞かせたい」と相談された。翻訳には大学生や非政府組織(NGO)、市内でカレー店を営むスリランカ人らが協力。出版社の許可を得て日本語の文の上に翻訳した言語のシールを貼り、インドネシア・スマトラ島沖地震やパキスタン地震などの被災地に贈った。長崎市の国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にも寄贈。同館が海外3カ国で主催した原爆展でも展示された。禎子さんの話は、原爆の悲惨さを伝える話として日本で語り継がれているが、紛争や災害に見舞われた国では懸命に生きた姿に励まされる子が多いといふ。これからも世界中で希望を与え続けてほしい」と渡部さんは願っている。

(西日本新聞 8月15日)



「政党って何のためにあるんだ？？」

公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



国民民主党の玉木代表は8月11日、立憲民主党との合流について党内の意見が分かれていることから、合流でも解散でもない「分党」をする考えを示した。そんでもって、玉木代表は合流には参加しないらしい。
んんん、ちょっと待てよ！！どっちも後ろに「民主党」ってついているけど、この政党っていったい何なんだ？？という人も多いだろう。まあ、いずれにせよ、あの悪名高き「民主党」の残党だと言えば、何となくわかるかな？？民進党とか希望の党とか言っても、何のことかわからないだろうし・・・(笑)

政党って、どうしてこうも簡単に、くつついで離れたり、はたまた「新党」ができたりするのだろうか？？国民が望んでそうなるのであれば拍手を送りたいが、たいていは、政治家中だけのマスターべーションに過ぎないのだ！
そうそう、大抵、新党ができるたり、別れたりするのは選挙が近づいてくる頃だ。もちろん国民のためではなく、自分たちの保身のためだけに、少しでも有利になるように動くのが政治家だし政党だ！選挙が近くになると、野党は与党に対抗するために、小さい政党では勝ち目がないので、少しでも大きな政党になろうと一緒になることが多い。その時は、政策とか理念なんてどうでもよいのだ！！政治家にとっては、政策よりも当選や政権奪取が重要なのだ！！

だって、かつて「自社さ」政権が誕生したときなんて、「自衛隊反対！！」なんて言い続けていた社会党が、急に天敵である自民党とくつづいて政権を取り、「自衛隊容認」って180度政策転換したのだが、まあ、あの時から、政治家には政策なんてのは建前に過ぎないのだなあ・・・と国民も悟ったわけである・・。

しかし、今回はちょっと違ったのだ！国民民主党は、立憲民主党への合流に対して、賛成派と反対派で分かれたのである。そういう意味では、「あっ、政党にも政策の違いが一応あるんだ！」と見直す人も多かったんだろう。その一番の違いは、消費税や憲法への考え方らしいが・・・。

しかし、本当のことを言おう！政策の違いではない！金だ！！金なのだ！！！
だって、全員で合流すると、推定60億円近くため込んだお金をみんな立憲民主党に持っていくから、それ以降は自分たちで自由に使えない。だから、合流しないで残れば、うまくいくと全部、悪くても人数分の政党交付金は自分たちのものなのだ！！簡単に言うと、玉木さんは「お金は俺のものだ」と言っていることと一緒になのだ！！お金が欲しかった立憲民主党の枝野さんとしては、残られると全部お金が来ないので、イライラしているだろう・・・。

しかし、こんな野党の勝手な分党や合流に厳しい意見も出てきている。作家の百田尚樹氏は今回の騒動に対して、「国民民主党の分党で、増税派や左翼志向は立憲民主に行ってくれると、有権者としてはわかりやすい」というユーチューバーのKAZUYA氏の投稿をリツートした上で「実はどれもこれも似たようなもの。どうせ、また分裂する。川に流れるゴミのかたまりみたいなもので、くつついで分かれたりしながら、だんだんと下流へ流れしていくだけ」と、立民を中心とした野党は今後も同様のことを繰り返すと指摘したのだ。百田さん、ナイス！！まさにその通り！！
共産党以外の野党って、政党名も覚えられないくらいのスピードで、くつついで別れたり、新しくなったり・・・ほんと、いずれ塊がどんどん小さくなつて、下流に下るほどゴミが消えて、最後はきれいさっぱりなくなってしまうのではないか？？はっきり言うが、どうせ、取るに足らないような政党や政治家たちなのだから、私は「消えて当然」だと思う。

だから、共産党のように、バカみたいに頑固に「大企業中心の資本主義社会」にすべて反対し続けたり、公明党のように、とにかく政権与党に居続けながらキャスティングボードを握り、自分たちのやりたいことをうまくねじ込んでいくズル賢さが、それ以外の野党の体たらくを見ていると、なぜだかとても素晴らしい見えるのだ！！

共産党と公明党は永遠に不滅だ！！でも、共産党って頑固すぎて、もうちょっと賢くなれないものだろうか？？？

だって、「共産党」って名前は恐らく好感度アンケートを取ったら、史上最低だろう(笑)

誰だって、大っ嫌いな中国やロシアや北朝鮮を思い出してしまうし・・。投票所までは、今度こそ共産党の人に投票しようと思っていても、つい「共産党」って名前を見て、白票にする人も多いのではないだろうか？？

いっそのこと共産党は「とにかく反対！党」とか「金持ち大っ嫌い党」に変えたらどうだろうか？？

小泉さんじゃないけど「大企業ぶっ壊す党！！」とか「貧乏人大逆転党！」なんてもう最高だ！！！

絶対に票を伸ばすような気がするのは私だけだろうか？？？

でも、そうすると、それを見て公明党も「腰ギンチャク党」とか「駄々こね党」って変えちゃうかもしれないかな・・・(笑)

.....CEOコラムバックナンバーはこちらから→ https://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html

編集後記

先日、通勤電車が遅延しホームも車内もまさにTHE三密状態！そこへ車内放送がかかり「本日は車両故障による影響で車内が大変混雑しております。皆様、車内中程へお繰り合わせの上、ご乗車願います。」混雑回避ではなく、混雑に拍車をかけるお言葉が…。コロナ前とは変わらぬ世界を実感しました。(ぼん)